

## &lt; 資料 &gt;

## 「おかやま黒豚」種子豚の産肉能力成績

佐野 通・荒金知宏・松馬定子・森 尚之・奥田宏健

Results of individual performance in young breeding pigs Okayamakurobuta

Tooru SANÔ・Tomohiro ARAKANE・Sadako MATUBA・Hisashi MORI and Kouken OKUDA

## 要 約

岡山県総合畜産センターで飼養しているパークシャー種繁殖豚から生産され、平成11～14年度に農家に譲渡した繁殖用育成豚（以下 種子豚）の一日平均増体量（以下 DG）、背脂肪厚（以下 BF）及びロース断面積（以下 EM）の成績を雄雌別及び種雄豚別に調査した。

- 1 雄の平均DGは年度別に540g、540g、550g及び550gであり、雌は490g、490g、540g及び500gであった。雌雄とも有意な増減は認められなかった。
- 2 雄の平均BFは年度別に1.9cm、2.0cm、1.6cm及び1.6cmであり、雌は1.9cm、1.9cm、1.7cm及び1.8cmであった。雄については平成13年度以降有意な減少を認めた。
- 3 雄の平均EMは年度別に21.2cm<sup>2</sup>、23.4cm<sup>2</sup>、23.9cm<sup>2</sup>及び24.9cm<sup>2</sup>であり、雌は22.0cm<sup>2</sup>、24.7cm<sup>2</sup>、25.6cm<sup>2</sup>及び27.3cm<sup>2</sup>であった。雌雄とも有意に増加していることを認めた。

キーワード：パークシャー種、種子豚、一日平均増体量、背脂肪厚、ロース断面積

## 緒 言

岡山県総合畜産センター（以下 当センター）では、優良な繁殖豚を飼養しながら、増殖及び改良して、繁殖用育成豚（以下 種子豚）を養豚農家へ供給することにより養豚振興を図っている。そこで、パークシャー種繁殖豚から生産された種子豚の産肉能力を調査した。

## 材料及び方法

## 1 実施期間

平成11年4月1日から平成14年2月5日までに、体重が105kg程度に達した種子豚274頭（雄98頭、雌176頭）について年度別及び種雄豚別に調査した。

## 2 調査項目及び方法

調査項目及び方法は表1に示すとおり、一日平均増体量（以下 DG）、背脂肪厚（以下 BF）及びロース断面積（以下 EM）について測定した。なお、各項目は（社）日本種豚登録協会豚産肉能力検定規定<sup>1)</sup>に基づく補正定数により、体重105kg時の成績に換算した。

表1 調査項目及び方法

項 目	方 法
一日平均増体量 ( DG )	生後から背脂肪厚測定時までの1日平均増体量。
背 脂 肪 厚 ( BF )	FHK SSD-500SEMを使用し、画面上で計測。 体重が105kg程度になった時に、体長の1/2部位で正中線から2～3cm離れた部位における真皮及び表皮を含む背脂肪の厚さの左右の平均値。
ロース断面積 ( EM )	FHK SSD-500SEMを使用し、画面上で計測。 背脂肪厚測定時と同じ部位で、ロース断面積の左右の平均値。

## 結果及び考察

## 1 年度別産肉成績

D G、B F及びE Mの年度別推移は、表2及び図1～3のとおりであった。

表2 D G、B F及びE Mの年度別成績

		平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
雄	D G (g)	540±44	540±45	550±45	550±59
	B F (cm)	1.9±0.2 a	2.0±0.4 a	1.6±0.4 b	1.6±0.3 b
	E M (cm <sup>2</sup> )	21.2±2.4 a	23.4±2.3 b	23.9±3.0 bc	24.9±3.3 c
雌	D G (g)	490±59 a	490±49 a	540±41 b	500±47 a
	B F (cm)	1.9±0.5	1.9±0.3	1.7±0.4	1.8±1.7
	E M (cm <sup>2</sup> )	22.0±2.6 a	24.7±2.2 b	25.6±2.8 b	27.3±3.9 c

\* 平均値±標準偏差、横列の異符号間に有意差あり (P < 0.05)

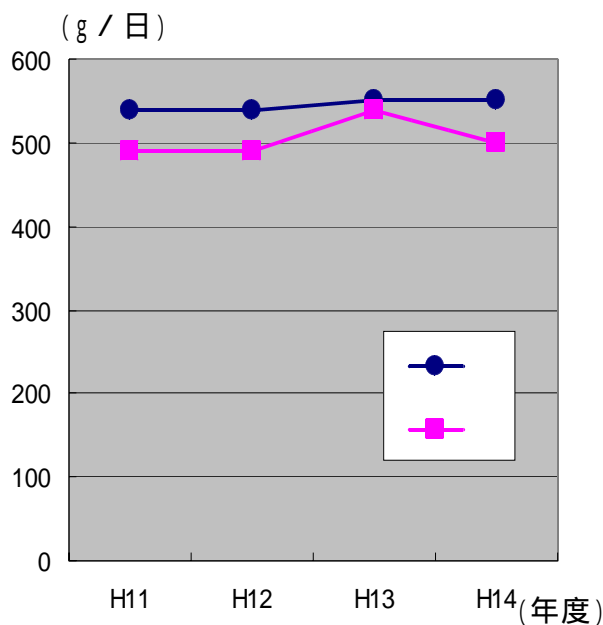


図1 D Gの年度別推移

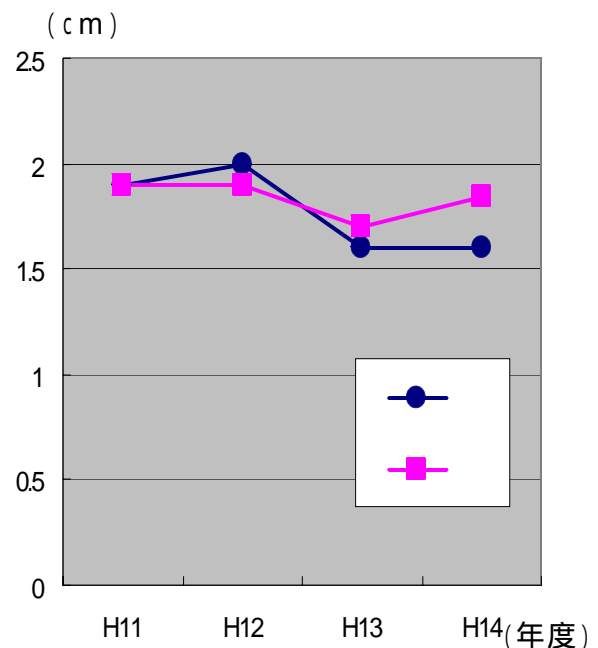


図2 B Fの年度別推移

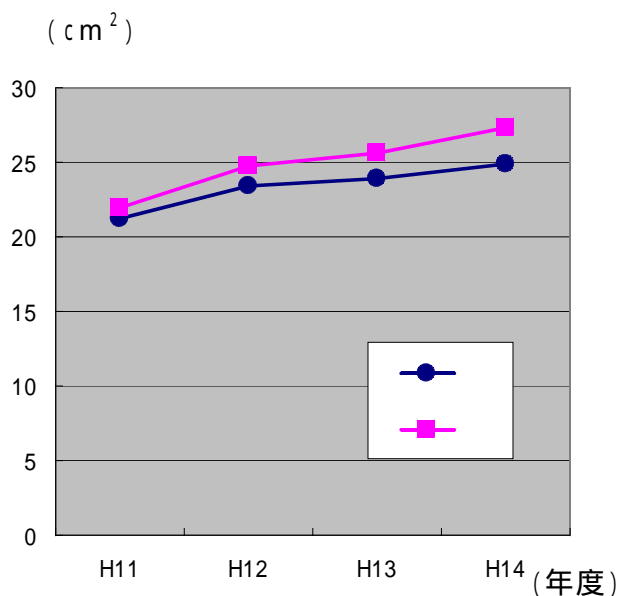


図3 E Mの年度別推移

種子豚雄の平均D Gは年度別に540g、540g、550g及び550gであり、雌は490g、490g、540g及び500gであった。雌雄ともD Gの有意な増減を認められなかった。

種子豚雄の平均B Fは年度別に1.9cm、2.0cm、1.6cm及び1.6cmであり、雌は1.9cm、1.9cm、1.7cm及び1.8cmであった。雄のB Fについては平成13年度以降に有意な減少を認めた。

種子豚雄の平均E Mは年度別に21.2cm<sup>2</sup>、23.4cm<sup>2</sup>、23.9cm<sup>2</sup>及び24.9cm<sup>2</sup>であり、雌は22.0cm<sup>2</sup>、24.7cm<sup>2</sup>、25.6cm<sup>2</sup>及び27.3cm<sup>2</sup>であった。雌雄ともE Mは有意な増加を認めた。

## 2 種雄豚別による種子豚の産肉成績

平成11年4月～平成15年3月に繋用した種子豚の種雄豚別の産肉成績を表3に示した。  
雄種子豚の平均値はD G 544g、B F 1.8cm、E M 23.7cm<sup>2</sup>であり、雌種子豚の平均値はD G 504g、  
B F 1.8cm、E M 25.6cm<sup>2</sup>であった。

表3 種雄豚別による種子豚の産肉成績

種雄豚(略号)	種子豚の性別	D G (g)	B F (cm)	E M (cm <sup>2</sup> )
B248(2)		560	1.5	25.5
B 97		560	1.8	27.6
B029		560	1.6	20.9
B504		540	1.7	23.2
B025		550	1.7	24.7
B1599		520	2.0	22.2
B357		570	1.6	23.1
B338		570	1.4	25.3
B201		530	2.0	23.1
B 83		510	2.1	20.9
B 81		560	1.9	18.9
B 8		470	2.0	25.6
B 58		500	1.4	24.0
B574		510	1.9	24.9
B 57		580	1.8	24.9
B 1		490	2.3	23.8
B 15		510	2.4	21.6
B 20		610	2.1	24.0
B 5		520	1.5	25.1
B 31		550	2.1	24.0
B 50		530	2.1	21.5
雄種子豚平均		544 ± 49	1.8 ± 0.4	23.7 ± 3.1
B248(2)		530	1.6	26.4
B 97		540	1.6	25.0
B029		490	1.4	28.9
B461		510	1.6	25.2
B504		480	1.9	24.8
B025		500	1.6	27.9
B1599		460	2.1	22.0
B357		510	2.3	22.7
B338		540	2.0	29.4
B201		470	1.8	23.4
B 83		510	1.7	22.0
B 81		490	2.5	19.9
B 8		500	2.0	27.1
B 58		520	1.4	24.2
B574		500	1.9	25.2
B 57		610	1.9	26.4
B 9		510	2.3	25.0
B 15		470	2.0	23.6
B 20		480	2.0	25.5
B 5		480	1.6	25.0
B 31		510	1.9	24.3
B 3		480	1.6	24.6
B 50		480	2.0	22.1
雌種子豚平均		504 ± 52	1.8 ± 1.2	25.6 ± 3.7

\* 平均値 ± 標準偏差

## 引用文献

- 1) 登録関係諸規定 平成13年4月(第4版)。(社)日本種豚登録協会編. 59-82